オプチペンプロ手技指導に際して心掛けていること

慶應義塾大学病院看護師　原　　和子

インスリングラルギン（ランタス）は，ペンシステムで注射が可能な持効型溶解インスリン製剤で，血糖コントロールの不安定な1型糖尿病患者さんたちはもちろんのこと，2型糖尿病患者さんたちにとっても期待の大きい薬剤です．しかしながら，専用注射器であるオプチペンプロの不具合を訴える患者さんが多く，せっかくの優れた製剤の使用の障害となっています．若い患者さんたちはオプチペンプロの理解が早いのですが，理解が早いからといって必ずしも安全にできるという保証にはなりません．むしろ，理解に時間のかかる患者さんの方が，パンフレットを見ながら忠実に自分のものにするという特徴があります．また，ペン型インスリン注射器を扱うのがはじめての方と経験ある方では，オプチペンプロに対する受け止め方に違いがあります．このように，年齢，理解力，他のペン型注射器の使用経験の有無などの違いを考慮しながらこれまで指導してきました．以下に私たちが経験したことから指導のポイントをまとめてみます．

1．ペン型注射器を初めて使用する患者さんより，むしろ他のペン型注射器からオプチペンプロに変更になった患者さんにトラブルが発生しやすかった．他のペン型注射器の使用経験のある方には，今までのペン型注射器と異なる点，どうしてトラブルが発生しやすいのかなどについて十分に説明したところ，円滑に変更できた．

2．重要な箇所はマーカーでパンフレットにしるしを付けた．強調するポイントをはっきりさせて，意識付けを行なった．

3．あらかじめ（オプチペンプロに）インスリンカートリッジがセットされた状態から，患者さんがインスリンを確実に打てることを第一目標にし，さらに患者さんの理解度に合わせて説明を進めた．

4．ペン型注射器を初めて使用する患者さんには，インスリンカートリッジをオプチペンプロに正しくセットできたことをこちらが確認したのち，帰宅してもらうようにした．

5．カルテの表紙にオプチペンプロを使用していることが分かるようにシールを貼り，オプチペンプロを安全に使用できていると我々が判断できるまで，定期的にかかわった．

以上のような指導のポイントを，糖尿病療養指導士を中心とする看護師が実践することにより，当院内科外来ではインスリンの過量投与などの重大なトラブルはなく，外来において安全にオプチペンプロを導入できていると考えています．今後，改良型の専用注射器が利用出来るようになる見通しと伺っています．

追伸：アベンティスファーマ社は本年6月6日よりオプチペンプロ1を使用している患者さんを対象に新しいペン『オプチクリック』の提供を開始しました．オプチクリックはピストン棒とカートリッジが一体となった新しいシステムを導入したペン型デバイスで，オプチペンプロ1で問題となったカートリッジ交換時の煩雑さを軽減しています．オプチクリックが登場しても，上述の情報アップデートにありますように，患者さんへのきめ細かい指導がもっとも大事なことといえましょう．（広報委員会委員長　内潟安子）